

### 藤原宮朝堂院東第四堂の調査(飛鳥藤原第142次)

都城発掘調査部では、藤原宮中枢部の構造を明らかにするための計画調査を進めています。儀式や政務の空間である朝堂院には東西にそれぞれ6棟ずつの建物(朝堂)が左右対称に整然と並び、これまでに東側4棟の発掘調査を終えました。今回の調査対象は東第四堂という南北棟建物です。建物の中心と推定される位置には用水路が東西に通っているので、まず水路を挟んだ南半分を調査しています。調査面積は760㎡です。調査は4月4日から開始し、7月以降は北半部の調査に移る予定です。

朝堂院は戦前から戦中にかけて日本古文化研究所が発掘調査をおこなっています。しかし、礎石の位置を確かめる部分的な調査だったので、建物の詳しい構造までは明らかにされていません。近年おこなった4棟の調査でも、それぞれ日本古文化研究所の調査成果と異なる新知見が得られています。

さて、肝心の東第四堂の残りはあまり良くありません。建物の基壇の高まりも残らないほど、後世に削平されています。それでも、建物の範囲内では地ならしの土の中に拳大の石を多く含み、特に石が密集する場所に礎石が置かれていたと推定できます。建物の解体に使用した足場穴も見つかりました。いっぽう、建物の外側には瓦が散乱し、建物の範囲もほぼ明らかにできそうです。現状を写真や図面に記録したのちに、排水溝など建物を造営する際の痕跡を見つけるべく、調査は続きます。

今年の春は雨が多く、調査区内に溜まった雨水の排水作業に追われています。これから梅雨を迎えるので、担当者も天気予報のあたりはずれに一喜一憂する日々が続きそうです。

(都城発掘調査部 豊島 直博)



遺構精査直前の状態(北から)